

# 中学校給食実現への方向性について

平成 30 年 6 月 26 日 議員協議会資料

## 1. センター方式実現可能性調査の結果概要（調査期間：平成 29 年 11 月～平成 30 年 3 月）

### (1) 調査における諸条件設定

調理能力：4500食

敷地規模：4361㎡（旧中池＋久代出張所跡地）

建築規制：緑化率（緑地面積）は敷地の20%、第1種住居地域（住居に隣接）

その他：ドライシステムによる施設整備

職員用及び来場者用駐車スペースを敷地内に確保

各中学校に配膳室を1箇所設け、上層階配膳のためのエレベーターを設置

運営は民間委託と仮定

### (2) 調査結果の概要

#### 給食センターの施設規模等

延床面積：3590㎡（1階＝1530㎡・2階＝1390㎡・3階＝670㎡）

機能配置：1階＝調理作業エリア、調理従事者エリア、職員事務室

2階＝調理作業エリア

3階＝見学用通路、研修室、調理実習室

1・2階間には作業用エレベーター4基を設置

#### 給食センターの概算事業費

	イニシャルコスト		ランニングコスト		総額	
センター	37.5 億円	本体	31.9 億円	15 年間	42.4 億円	79.9 億円
		配膳室	5.6 億円	1 年当たり	2.8 億円	

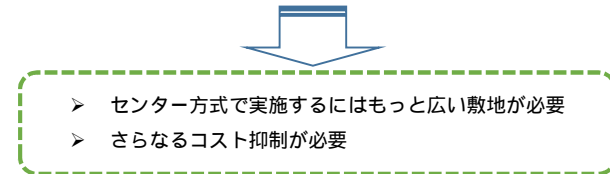
\* 配膳室費用にはエレベーター設置費用を含む

#### 配送計画

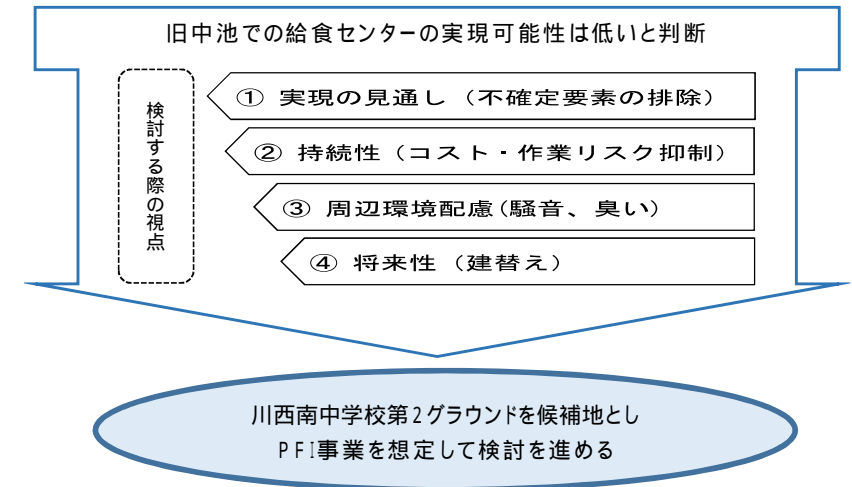
- 調理後2時間以内の喫食が可能
- 最も遅い学校でも、調理完了から67分後には配送トラックが到着

## 2. 調査結果から見えた課題（旧中池に給食センターを建設する場合に生じる課題）

課題1 (運用面)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 全中学校分の喫食数を賅うには土地が手狭</li> <li>➢ 調理作業エリアを複層階に分離すれば敷地内に収まるが、運営上非効率な施設となる</li> </ul>
課題2 (コスト面)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 事業費の圧縮は可能だが、建設費、運営費、設備費などにおいて、15年間で約80億円（1年当たり5.3億円）ものコストが掛かる</li> <li>➢ 土地が狭いことでコストが割高</li> </ul>



## 3. 課題を踏まえた中学校給食実現への方向性



#### 判断理由

1. 市有地かつ準工業地域内であるため、短期間でセンター建設が可能
2. 敷地面積にゆとりがあるため、ワンフロアでの設計が可能
3. 旧中池案と比較すれば、用地費や建設費など一定のコスト抑制が可能
4. 住宅地から距離があるため、騒音・臭いの影響が低い
5. 将来的には第2グラウンド内で建替用地を確保できる